

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	若葉保育園
日時	令和7年11月20日

1. 活動テーマ

<テーマ>

2歳児…葉っぱの色を見てみよう パート2

<テーマ設定理由>

前回の葉と色のすくわく活動では公園で行ったため、様々な物に気持ちが散ってしまっていたので、今回は保育室の落ち着いた環境で行う。

2. 活動スケジュール

- ・園庭に落ちている葉を子ども達と一緒に拾い、興味を広げていく。葉の形や色から身近なものを連想をして自然に親しみを持てるようにする。
- ・図鑑や季節の本を見て葉が紅葉している様子を一緒に見ていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・赤色、茶色、薄茶色、黄色の画用紙
- ・様々な色の葉っぱ
- ・机、椅子

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・赤、茶色、黄色など様々な色に染まった葉の中から自分が興味をもった葉を見つけて触ったり、匂いを嗅ぐ。
- ・はじめは葉に触れることを楽しみ色への興味はなかったが保育士が「(画用紙を指差して)この色と同じ葉っぱを探してみようか」などときっかけをつくる言葉を発すると子どもも落ち葉の中から画用紙と同じ色の葉を手にとって「あった」と見せて画用紙と照らし合わせていた。
- ・緑色の葉を手に取り、「この色はどこ？」と画用紙の色を探していた。緑色は用意していなかったが色に意識を向けられているサインだと気づいた。緑色の画用紙も用意すると葉をのせていた。
- ・葉をちぎって形を変える子どももいた。葉の形の変化に興味をもっていた。
- ・保育士が言葉の投げかけをすることで子ども達も色に興味を持ち始めることが多かったので質問をしながら進めていけるようにした。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>



- ・初めは葉の匂いを嗅いで「いい匂いがするよ」と香りに興味をもつ。
- ・黄色の葉を見つけると黄色の画用紙に葉をのせる。赤や黄色は見分けが付きやすいようですぐに分けていた。
- ・茶色と黄色が混ざった葉を見つける。その葉を茶色と黄色の画用紙の間におく。
- ・「(薄茶色の画用紙を指差して)この色の仲間はいるか？」と声をかけると表は茶色、裏は薄茶色の葉を手に取り、葉を裏返して薄茶色の画用紙に置く。微細な色の変化に気づく。
- ・葉をたくさん並べて大きな葉を手に取り、「大きいな」と言う。形にも興味を持つ。
- ・色を気にせずに画用紙にたくさんの葉を並べる子どももいる。
- ・「赤」「これは青？」と保育士に色の名前を確認しながら葉の色を言う。
- ・緑の葉を見つけ置き場所に迷う。緑の画用紙を用意し、置く。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・椅子と机を用意して落ち着いた環境で取り組めるように前回と設定を変更した。椅子に座ると早速、葉に興味を持って触っていたので子どもが集中して葉と向き合っていることを感じた。初めは子どもが葉と出会う様子をじっくり見守った後に保育士が活動の内容を子どもと対話しながら説明していくようにした。「この葉は何色かな？」などと問いかけていくことで子どもの言葉を引き出した。初めは色画用紙に誘導をしていくことが難しかったので「この画用紙と同じ色のお友達(葉)はどこかな？」と質問の方法を変えていくことで活動の内容を理解できていた。保育士の言葉かけ一つで活動内容の捉え方、進み方も変わってくることに気づいた。
- ・子どもによって葉への興味の持ち方は様々だった。葉の匂いを感じたり、乾燥した葉を指でちぎり感触に触れたり、葉の色に興味を持ったりとそれぞれの姿は異なっているが葉へ興味を持っているということは同じなので子どもによって活動の内容とは異なることもあったが見守っていくようにした。
- ・色分けの時には微妙な色の違いに気づく子どももいたり、葉の色を裏返すと画用紙の色に近くなることに気づく姿もあった。子ども一人ひとりによって色彩の感じ方は異なるのだと感じた。大胆に葉を振り分ける子どもにも何か意図があるのか、それとも何も考えずに振り分けているのか結果は分からなかったが色彩の微細な違いにも気づける子どももいたり個人差がでる興味深い活動だった。